

## (てんでんこ) マイ電力：13 オフグリッド

2017年5月11日05時00分



大本さん（右）と渡辺さん。後ろはオフグリッドの住宅

■自分で作った電気を自由に自分で使う。「もっとわくわくする暮らしが実現する」

大本朋由（おおもとともゆき）（50）が「オフグリッドの家」で暮らす実験は11日、827日目になった。

電力会社の電気に頼らず、一切の電源を太陽光でまかなう生活だ。都内に自宅があり、不動産会社を営んでいるが、神奈川県三浦市に造った。千日の実証実験が終われば、モデル住宅を売り出そうと思っている。

居間とキッチンのエアコンが3台で6キロワット。冷蔵庫40ワット、大型テレビ324ワット…。ふだんの暮らしで、1日12～15キロワット時を消費する。送電網（グリッド）から切り離れた「オフグリッド生活」を実践している人は、少なくない。でも、薪（まき）で風呂を沸かしたり、コンロでご飯を炊いたり、ギリギリの節電生活をする人が多い。大本は違った。「当たり前前の暮らしを太陽光だけで実現したい」

だから、バッテリーは24キロワット時の大型を3台そろえた。玄関脇の倉庫はいっぱいになった。大きすぎたかな、と思ったが、昨年9月の長雨時に威力を発揮した。

9月は3日から26日までの24日間、「晴れ」はなかった。7割が雨、あとは曇りだったが、それでも1日平均の太陽光発電は23・7キロワット時。15・3キロワット時平均の消費をまかなうことができた。この間のバッテリーの蓄電量は41%まで減った。担当の渡辺実（わたなべみのる）（39）は言う。「2台でも足りたが、余裕をもって暮らすなら、3台必要でしょう」

大本は子どものころから、太陽の光で作った電気だけで暮らしたい、と思っていた。オフグリッド住宅モデルの値段は検討中だ。実証実験に使った家は、バッテリーで3千万、パネルも含めた関連設備だけで4千万円かかった。が、バッテリーもパネルもここ数年で半額近くに値下がりした。これから供給が増えれば、さらに値段は下がる。

実証実験の電気の生産・消費量は同社のホームページ（ballenergy.jp）で公開中だ。昨年夏には研究者や業界関係者約60人が集まり「オフグリッド会議」を開いた。大量の住宅用の太陽光発電（10キロワット未満）が固定価格買い取り制度（FIT）の対象から外れる2019年問題などが話題になった。自分で作った電気を電力会社に買い取ってもら

うより、自分で使った方が割に合う時代が来る。大本は思う。「自然エネルギーを自由にコントロールできれば、もっとわくわくする暮らしが実現する」(菅沼栄一郎)

(No. 275)

---

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.